



富岡城跡から望む町並み

町並みについて

- ◆ 苓北町富岡地区は、天草下島の北西部に突き出した半島の砂州上に位置しています。富岡湾を取り囲む砂州の先端が防波堤の役割を果たし天然の良港となっており、対岸の長崎県との経済的な交流もありました。
- ◆ 1602年頃に唐津藩主寺沢広高によって富岡城が築城されたことにより発展し、天草・島原の乱後は、天草の行政の中心として城下町の整備が行われました。富岡城自体は1670年に破城されましたが、その後も三の丸に代官所が置かれ明治初期まで天草の行政の中心地であり続けました。
- ◆ 現在も百間土手や大手門、跳ね橋が架けられた堀切などの遺構が町中に残っています。



町並みの中心(核)となる伝統的建造物

富岡城大手門跡

- ◆ 天草・島原の乱後の1638(寛永15)年に築かれた大手門跡で、1670(寛文10)年に破城された後も石垣だけは残っていました。石は天草市五和地区から運ばれたと言われています。
- ◆ 昭和期に入り取り崩されたものの、石垣と大手門の跡は2009年に修復されました。道路として使用されている部分には舗装の仕様に工夫を凝らし、かつての大手門の全体像を想像できるようになっています。



修復された富岡城大手門跡

同地区は、「五足の靴」一行の天草での出発点となったほか、頼山陽や林芙美子など当時の文豪が訪れた足跡が残っています。天草・島原の乱や富岡城関連の遺構が残る町中に、文学に登場した風景が重なり、天草の歴史を感じることができる町並みとなっています。